

(様式第1号)

平成30年10月30日

認定介護福祉士認証・認定機構
理事長 大島 伸一 様

領域名：心理・社会的支援の領域
科目名：地域生活の継続と家族支援
単位数：2単位
認証申請する研修の名称：認定介護福祉士養成研修

団体名：一般社団法人静岡県介護福祉士会
団体事務所の所在地：〒420-0856
静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
電話：054-253-0818
FAX：054-253-0829
E-mail：shizukai@cy.tnc.ne.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者：一般社団法人静岡県介護福祉士会
申請責任者：会長 及川 ゆりこ



記

○認定介護福祉士研修認証申請書（別紙1～3）

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙1) 認定介護福祉士研修認証

※申請受付番号

(※は記入しないでください)

認定介護福祉士研修認証申請書

申請年月日	平成30年 10月 2日
申請団体名	一般社団法人 静岡県介護福祉士会
申請団体代表者氏名	会長 及川 ゆりこ
申請責任者職名 申請責任者氏名	認定介護福祉士養成研修担当 理事 水野 公智
団体住所 同 Tel・Fax メールアドレス	〒420-0856 静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階 Tel: (054)-(253)-(0818) Fax: (054)-(253)-(0829) E-mail: shizukai@cy.tnc.ne.jp
申請対象の領域	領域名: 心理・社会的支援の領域
科目名(単位数)	科目名: 地域生活の継続と家族支援 (2単位)
申請する研修名	認定介護福祉士養成研修
研修認証実績	年 認証番号 () 年 認証番号 () 年 認証番号 ()
その他特記事項	

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	心理・社会的支援の領域	
科目名	地域生活の継続と家族支援	
(1) 提供する研修について		
研修名	認定介護福祉士養成研修	
教育目的	<ul style="list-style-type: none"> 利用者本人が培ってきた社会関係、社会的役割の維持、社会参加の支援や、家族への支援が行えるとともに、介護サービスだけではない地域のインフォーマルな資源も活用して、地域生活の継続を支援することができる力を育成する。 	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 利用者が培ってきた社会関係や社会的役割を踏まえて、介護サービスを利用することが必要になってもそれらとの関係を断ち切らずにできるだけ維持できる支援の計画を考案することができる。 インフォーマルな担い手による互助の活動について、担い手、活動内容、連携の方策や留意点について説明できる。 家族介護者の負担や困難について、典型例をあげるとともに、家族介護者への支援や連携の方策について説明できる。 複合的な困難を抱える家族について、典型例をあげるとともに、支援や関係機関等との連携の方策について説明できる。 	
研修内容（研修プログラム）	含むべき内容	研修プログラム
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会関係、ソーシャルサポート、社会的役割、社会参加の重要性と支援 <ul style="list-style-type: none"> ・社会的な繋がり、人間関係、ソーシャルサポートの維持、再形成の支援 ・介護サービスによって、社会関係等を断ち切ってしまう危険性とその回避 ・社会的役割の維持、社会参加の支援 ○ 地域のインフォーマルな担い手による互助活動 <ul style="list-style-type: none"> ・意義と機能 ・主な担い手、活動・サービスの内容 ・連携の方策や留意点 ○ 家族支援 <ul style="list-style-type: none"> ・家族介護者の負担と支援 ・複合的な困難を抱える家族への支援 	<p>◆◆事前課題◆◆（7時間）</p> <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会関係や以前の社会的役割を踏まえた継続性のある生活を支援するために、どのような情報収集やプランニング、支援の配慮等が必要となるのか、研修本時で学ぶ知見を実践の実務に結びつけて理解できる視点を形成することをねらいとする。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域生活の継続や家族支援の参考となると考えられる文献を1つ読んだうえで、サービス利用者（適当な事例がない場合は、自分自身の家族などでもよい）を1名特定し、その人物について地域生活の継続や家族支援を視野に入れた介護計画を作成するためのアセスメントと分析を実施する。（介護福祉士基本研修テキスト「アセスメント表1-1、1-2、2、3」を使用すること） <p>【方法】</p> <p>介護福祉士基本研修テキスト「アセスメント表1-1、1-2、2、3」により地域生活の継続や家族支援を視野に入れた介護計画を作成するためのアセスメントと分析を実施すること。</p>

◆◆研修1日目◆◆

(8時間 講義5時間・演習3時間)

●導入講義・演習1 (導入1.5時間)

(家族介護者、介護負担、家族支援等)

- ・家族、地域等社会構成主義的概念を理解、講義への導入として概念形成を助けることを狙いとする。

①家族概念の多様性

自己と他者の家族概念の違いをダイアログを通じて認識する。

②地域概念の多様性

地勢、物理的、社会関係、概念認識等各層の地域イメージをダイアログを通じて理解する。

- ・学習のはじめに緊張感をほぐし学習への積極的な参加をうながす。

●講義1 (基礎理論1.5時間)

(社会的役割、ソーシャルサポートの機能等)

【内容】

- ・家族及び地域に関する主要学説紹介、現代社会と、社会関係、ソーシャルサポート、社会的役割、社会参加の重要性

【方略】

- ・演習1での体験事象を理論解説に引用し概念の定着を図る。
- ・さらに、数分程度のチーム内ダイアログを組み入れの事象との接近を図りつつ進める。

●演習2 (社会関係への介入1.5時間)

【ねらい】

- ・演習1、講義1の知見をベースに社会的介入の実際を演習的に体験する。社会的な繋がり、人間関係、ソーシャルサポートの維持、再形成の支援をイメージする。

【方法】

- ・A教材「地域支援事例カンファレンス」
B教材「ダブルケアに関する家族ケアの支援会議」等のモデル化した教材VTRを視聴し、各事案の社会的な繋がり、人間関係、既存のソーシャルサポート等を把握し、その維持、再形成の支援についてディスカッションする。
ディスカッションを行い模造紙大のワークシートを埋めていく。
- ・共有化によりグループごとに異なる視点への気づきを促し、それらの相違がどういう着眼点の相違から生じているかを解説する。

●講義 2 (社会資源 1.5時間)
(地域生活支援、社会参加支援等)

【内容】

- ・社会的な繋がり、人間関係、ソーシャルサポートの維持、再形成支援について概説
- ・介護サービスによって、社会関係等を断ち切ってしまう危険性とその回避について、典型例を挙げ解説
- ・社会的なつながりの維持と社会的役割の維持の関係について。
- ・新たな社会参加の形成支援の困難性とポイント

【方略】

- ・演習 2 の場面観察分析体験を理論解説に引用し概念の定着を図る。

●講義 3 (家族支援 1.5時間)

【内容】

- ・家族介護者の負担と支援、複合的な困難を抱える家族への支援概説。
- ・具体的な事象への適用と方法的枠組み概説

【方略】

- ・ここまでの学習内容に加え、家族関係論、家族文化の固有性及びその分析方法等を踏まえ、介入と支援のプランニング、他職種・機関との連携等の基本原則等を解説。

●講義 4 (まとめ 0.5時間)

- ・1日目の学びを整理し、2日目の演習での事前課題エピソードについて、体系的な情報共有(カンファレンス・多職種連携場面でのプレゼンテーション、合意形成)を行いカンファレンスによる合意形成のトレーニングを行うことを示唆する。
- ・2日目演習で行う事前課題エピソードの分析的プレゼン等のポイントを提示することで、1日目、2日目の自習効果を促進する。

◆◆研修2日目◆◆

(7時間 講義 3時間・演習 4時間)

●演習 3

(事前課題エピソード分析プレゼンと共有 1.5時間)

【ねらい】

- ・実際の自己エピソードを1日目で学習した理論や介入のポイントを用いて分析し現状と課題の改善策を他者に理解が得られるよう解説できるようにする。
- ・他者の分析や介入支援提案に対しクリティ

	<p>カルな意見交換を行うことで、地域や自所属実践における主体的参画など自分自身の行動についての省察を導く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護場面の特性を視野に入れたチームマネジメントの視点を形成する。 <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題のエピソードについて1日目の学習内容に基づき分析的にとらえ、課題の改善策をグループ内でショートプレゼンテーションする。 ・グループメンバーは各プレゼンごとに、ブリーフィングを実施し、その内容についてクリティカルな意見交換を行う。 ・最後に共有されたグループメンバーのエピソードとその課題及び改善策の中から、最もグループ内で学びの深いと思われるエピソード1～2題を選定し、演習4の題材を決定する。 ・グループメンバーそれぞれが異なるエピソードを共有することで地域特性や家族課題等のバリエーション、それらへのアプローチに生じやすい特性への視野を形成する。 <p>●講義4（社会資源の発見と開拓2時間） （インフォーマルな担い手、互助活動の機能等）</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会資源の特性と分類概念、インフォーマル資源の理解と開拓概説。 <p>【方略】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習3のメンバー間の発表内容を引用し概念の定着をはかる。 ・演習4に向けた導入として解説することで、介護過程の展開としての実践的な地域生活の継続支援と家族支援の展開に必要な点を概説する。 <p>●演習4（地域生活の継続支援と家族支援の展開2.5時間）</p> <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的エピソードを素材に、介護サービスの利用による社会関係の断絶、家族介護者の負担や困難など典型的に生じやすい社会関係状況に対し、インフォーマル資源のマッチング、複合的な困難を抱える家族等家族介護者への支援や多職種多機関との連携方策などを検証し、介護過程の展開として介入支援の方策を検討する。 <p>【方法】</p>
--	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題素材から選定した一事案を素材に、インフォーマル資源のマッチング、複合的な困難を抱える家族等家族介護者への支援や多職種多機関との連携方策などをグループでディスカッションし、介護過程の展開として介入支援の方策を検討する。 ・家族支援や地域連携支援に生じやすいチーム活動の課題についてグループごとに発表を行い、提示された評価視点をもとにクリティカルな相互評価を行う。 <p>●講義5（まとめ・学習評価・事後課題1時間）</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2日間の学習内容を振り返り、介護職のチームマネジメントについての基礎理論とその実践適用について解説する。 ・基礎理論について学習効果測定を行い、事後課題の提示を行うことで学習の継続と定着を促す。 <p>◆◆事後課題◆◆（8時間）</p> <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2日間の学習で得た地域生活の継続と家族支援について必要となる基礎理論や分析、実践展開のポイントを踏まえて、自組織における自身の具体的取り組みの提示とともに解説することで、介護福祉士として介護実践としての地域生活の継続と家族支援における自分自身の行動について省察を深める。 <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2日間の学習内容を踏まえ、地域生活の継続と家族支援について介護実践における認定介護福祉士として自分自身が取り組む具体的な姿勢について、1500字でまとめる。
研修方法	<p>■集合研修 ■課題学習</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>○集合研修講義と演習を組み合わせる。 ○課題学習は事前課題として、①資料を読み自己学習、②レポート課題。事後課題としてレポート課題2種を課す。評価は担当講師が行う。</p>
研修時間	30時間（集合研修 15時間、課題学習 15時間）
修了要件	<p>○原則として全課程の出席を要する。公共交通機関の影響、冠婚葬祭、担当する利用者の急変といったやむを得ない事情による遅刻又は早退については30分を上限として認める。（レポート課題あり）</p> <p>○集合研修を欠席した場合、課題が提出されていても修了を認めない。</p> <p>○事後課題はA～Dの4段階評価とし、D評価の場合は再提出を求める。</p> <p>○欠席の場合は修了を認めない。</p>
講師要件（講師の選定基準）	○当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験があること

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 修士課程を修了していることが望ましい ○ 地域生活支援や家族支援、相談支援業務についての実務経験がある有資格者（介護福祉士、主任ケアマネ、社会福祉士、保健師、精神保健福祉士、臨床心理士、作業療法士等）が望ましい
(2)受講者について	
受講対象 (受講要件)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「認知症介護福祉士概論」を修了していること ○ 「心理的支援の知識・技術」を修了していること
修了評価	<p>修了評価は以下により行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①出席状況が修了要件を満たしていること。 ②演習において、発言内容、他者の意見に対する対応、演習内容の理解力等を講師が評価し、一定以上の基準を満たしていること。 ③基礎理論については、知識チェック（テスト）を行う。テスト 40 点、リフレクションペーパーの内容 30 点、自己演習+演習・講義への参加貢献度 30 点の割合とする。 ④100 点満点中 80 点以上を A 評価、70～79 点を B 評価、60～69 点を C 評価、それ未満の場合は D 評価とし、評価が A～C であること。D 評価の場合は再提出を求め、C 以上の評価を得なければならない。
(3)研修の環境条件	
定員（講師の配置基準）	30名（講師 1 名）講義・演習とも同じ講師で行う
開催場所（都道府県）	静岡県総合社会福祉会館（静岡県静岡市葵区駿府町 1-70）

コマシラバス

1日目【8時間】

区分	プログラム	時間	内容
1コマ目	導入講義と演習1（講義）	9:30～11:00	90 (家族介護者、介護負担、家族支援等) 【内容】 ・家族、地域等社会構成主義的概念を理解、講義への導入として概念形成を助けることを狙いとする。 ①家族概念の多様性 自己と他者の家族概念の違いをダイアログを通じて認識する。 ②地域概念の多様性 地勢、物理的、社会関係、概念認識等各層の地域イメージをダイアログを通じて理解する。 ・学習のはじめに緊張感をほぐし学習への積極的な参加をうながす。
	休憩	11:00～11:10	
	講義1（基礎理論）	11:10～12:40	90 (社会的役割、ソーシャルサポートの機能等) 【内容】 ・家族及び地域に関する主要学説紹介、現代社会と社会関係、ソーシャルサポート、社会的役割、社会参加の重要性 【方略】 ・演習1での体験事象を理論解説に引用し概念の定着を図る。 ・さらに、数分程度のチーム内ダイアログを組み入れの事象との接近を図りつつ進める。
	昼食休憩	12:40～13:40	
2コマ目	演習2（社会関係への介入）	13:40～15:10	90 【ねらい】 ・演習1、講義1の知見をベースに社会的介入の実際を演習的に体験する。社会的な繋がり、人間関係、ソーシャルサポートの維持、再形成の支援をイメージする。 【方法】 ・A教材「地域支援事例カンファレンス」 B教材「ダブルケアに関する家族ケアの支援会議」等のモデル化した教材VTRを視聴し、各事案の社会的な繋がり、人間関係、既存のソーシャルサポート等を把握し、その維持、再形成の支援についてディスカッションする。 ディスカッションを行い模造紙大のワークシートを埋めていく。 ・共有化によりグループごとに異なる視点への気づきを促し、それらの相違がどのような着眼点の相違から生じているかを解説する。
	休憩	15:10～15:20	

3 コマ目	講義 2 (社会資源)	15:20~16:50	90	(地域生活支援、社会参加支援等) 【内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・社会的な繋がり、人間関係、ソーシャルサポートの維持、再形成支援について概説 ・介護サービスによって、社会関係等を断ち切ってしまう危険性とその回避について、典型例を挙げ解説 ・社会的なつながりの維持と社会的役割の維持の関係について。 ・新たな社会参加の形成支援の困難性とポイント 【方略】 <ul style="list-style-type: none"> ・演習 2 の場面観察分析体験を理論解説に引用し概念の定着を図る。
	休憩	16:50~17:00		
	講義 3 (家族支援)	17:00~18:30	90	【内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・家族介護者の負担と支援、複合的な困難を抱える家族への支援概説。 ・具体的な事象への適用と方法的枠組み概説 【方略】 <ul style="list-style-type: none"> ・ここまでの学習内容に加え、家族関係論、家族文化の固有性及びその分析方法等を踏まえ、介入と支援のプランニング、他職種・機関との連携等の基本原則等を解説。
	講義 4 (まとめと学習の振り返り)	18:30~19:00	30	【内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・1日目の学びを整理し、2日目の演習での事前課題エピソードについて、体系的な情報共有(カンファレンス・多職種連携場面でのプレゼンテーション、合意形成)を行いカンファレンスによる合意形成のトレーニングを行うことを示唆する。 ・2日目演習で行う事前課題エピソードの分析的プレゼン等のポイントを提示することで、1日目、2日目の自習効果を促進する。

2 日目 【7 時間】

区分	科目名	時間	内容
4 コマ目	演習 3 (事前課題エピソード分析プレゼンと共有)	9:30~11:00	90 【ねらい】 <ul style="list-style-type: none"> ・実際の自己エピソードを1日目で学習した理論や介入のポイントを用いて分析し現状と課題の改善策を他者に理解が得られるよう解説できるようにする。 ・他者の分析や介入支援提案に対しクリティカルな意見交換を行うことで、地域や自所属実践における主体的参画など自分自身の行動についての省察を導く。 ・介護場面の特性を視野に入れたチームマネジメントの視点を形成する。 【方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題のエピソードについて1日目の学習内容に基づき分析的にとらえ課題の改善

				<p>策をグループ内でショートプレゼンテーションする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループメンバーは各プレゼンごとに、ブリーフィングを実施し、その内容についてクリティカルな意見交換を行う。 ・最後に共有されたグループメンバーのエピソードとその課題及び改善策の中から、最もグループ内で学びの深いと思われるエピソード1～2題を選定し、演習4の題材を決定する。 ・グループメンバーそれぞれが異なるエピソードを共有することで地域特性や家族課題等のバリエーション、それらへのアプローチに生じやすい特性への視野を形成する。
	休憩	11:00～11:10		
5 コマ目	講義 5 ① (社会資源の発見と開拓)	11:10～12:10	60	<p>(インフォーマルな担い手、互助活動の機能等)</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会資源の特性と分類概念、インフォーマル資源の理解と開拓概説。 <p>【方略】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習3のメンバー間の発表内容を引用し概念の定着をはかる。 ・演習4に向けた導入として解説することで、介護過程の展開としての実践的な地域生活の継続支援と家族支援の展開に必要な点を概説する。
	昼食休憩	12:10～13:10		
	講義 5 ② (社会資源の発見と開拓)	13:10～14:10	60	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会資源の特性と分類概念、インフォーマル資源の理解と開拓概説。
6 コマ目	演習 4 導入 (地域生活の継続支援と家族支援の展開)	14:10～14:40	30	<p>【演習 4】 導入解説</p> <p>事前課題から選定した一事案 (実践的エピソード) を素材に、家族等家族介護者への支援や多職種多機関との連携方策などを検証し、介護過程の展開として介入支援の方策を検討する演習導入講義と方法の解説。</p>
	休憩	14:40～14:50		
7 コマ目	演習 4 (地域生活の継続支援と家族支援の展開)	14:50～16:50	120	<p>【演習 4】</p> <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的エピソードを素材に、介護サービスの利用による社会関係の断絶、家族介護者の負担や困難など典型的に生じやすい社会関係状況に対し、インフォーマル資源のマッチング、複合的な困難を抱える家族等家族介護者への支援や多職種多機関との連携方策などを検証し、介護過程の展開として介入支援の方策を検討する。 <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフォーマル資源のマッチング、複合的な困難を抱える家族等家族介護者への支援や多職種多機関との連携方策などをグループでディスカッションし、介護過程の展開

				<p>として介入支援の方策を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族支援や地域連携支援に生じやすいチーム活動の課題についてグループごとに発表を行い、提示された評価視点をもとにクリティカルな相互評価を行う。
	休憩	16:50～17:00		
7 コマ目	講義5（まとめ・学習評価・事後課題）	17:00～18:20	80	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2日間の学習内容を振り返り、介護職のチームマネジメントについての基礎理論とその実践適用について解説する。 ・基礎理論について学習効果測定を行い、事後課題の提示を行うことで学習の継続と定着を促す。 <p>・全体の振り返り（リフレクションペーパー作成）</p> <p>・筆記試験</p>

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証

認証申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1) 研修の実施予定	
実施日	① 平成 31 年 10 月 26 日
	② 平成 31 年 10 月 27 日
	③
開催場所 (会場)	① 静岡県総合社会福祉会館 (静岡市葵区駿府町 1-70)
	②
	③
(2) 講師	
担当、氏名及び略歴	<p>「地域生活の継続と家族支援」 菊池健志 氏</p> <p>現職： 特別養護老人ホームクロスハート幸・川崎施設長 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター講師 実践ソーシャルワーク塾</p> <p>経歴： 元神奈川県総合療育センター地域企画課長、元神奈川県立大学実践教育センター介護教員養成課程専任教員</p> <p>有資格：社会福祉士 講師歴： 日本介護福祉士会リーダー(講師養成)研修講師、ファーストステップ研修講師 (長野、鳥取、三重、沖縄、滋賀、京都、大阪)</p> <p>主な著書 「できることから地域福祉ノウハウ」さわやか福祉財団、 「介護福祉士合格指導講座 テキスト3 社会福祉概論/老人福祉概論」通信教育講座ユーキャン共著 「わかりやすい介護保険法の手引」新日本法規出版共著、 「介護保険・保健福祉辞典」ジャパンインターナショナル総合研究所、共著ほか</p>
	<p>担当する講義等 事後課題評価 菊池健志氏 経歴等は同上</p>

(3)実施体制	
研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)	認定介護福祉士養成研修実行委員会（非常勤:6名） 委員会事務局（担当事務局員：常勤2名・非常勤2名） 認定介護福祉士養成研修委員会において各科目の教育目的や到達目標を確認し、担当講師と科目間の連関や留意点について共有する。またできる限り研修実行委委員会の委員が研修に参加・見学し、研修内容を評価するとともに、随時研修の見直しを図る。
研修の企画運営に関する諸規程	静岡県介護福祉士会の定款、研修委員会の諸規程に準ずる。
研修管理責任者職名	会長
研修管理責任者氏名	及川 ゆりこ
機構問合先部署	静岡県介護福祉士会事務局
機構問合先担当者氏名	平野 美智子
機構問合先電話番号/FAX	054-253-0818 / 054-253-0829
機構問合先 e-mail アドレス	shizukai@cy.tnc.ne.jp
受講問合先部署	静岡県介護福祉士会事務局
受講問合先担当者氏名	平野 美智子
受講問合先電話番号/FAX	054-253-0818 / 054-253-0829
受講問合先 e-mail アドレス	shizukai@cy.tnc.ne.jp
(4)研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	静岡県介護福祉士会事務局
受講履歴の管理方法	○紙媒体及びデータによる台帳管理 ○データ保存期間は最低10年間とし、その後は、紙媒体で保管する。 ○個人情報の取り扱いにおいては、法律を遵守する。
受講履歴の証明	各科目を修了した時点でその科目の修了証明書を発行し、全課程を修了したのものには、全課程を修了した証明書を発行する。
管理責任者氏名	及川 ゆりこ（会長）
管理担当者氏名	平野 美智子（事務局長）

